

極秘  
まで

北東アジア課長 符登園 濟

アジア局長 ~~ア~~ 日韓政界の対衝を巡る四回会議記録

大臣の在外務長官との会談

3月15日 卜部記

37, 3, 18<sup>5</sup>

北東アジア課

本件会談は、3月15日午後10時5分より11

時45分まで、一時間40分、大臣接見室に

お12行はれた。大臣、長官のほか杉、裴両首

席代表が参加、裴大統領の通訳に書った。

会談内容につき、大臣より伺ったところ次の

通り(大臣から卜部参事官に対し、口述した内容)。

会談後

要旨

日韓政界の対衝は、従来にくらべればやや柔かく

北東アジア課長

72

なつた。中記様事類について、それがさ失したり

してゐることにつき、總論中で述べられたことと

蔵相の旨述べていた。韓国の例は、貨幣価値

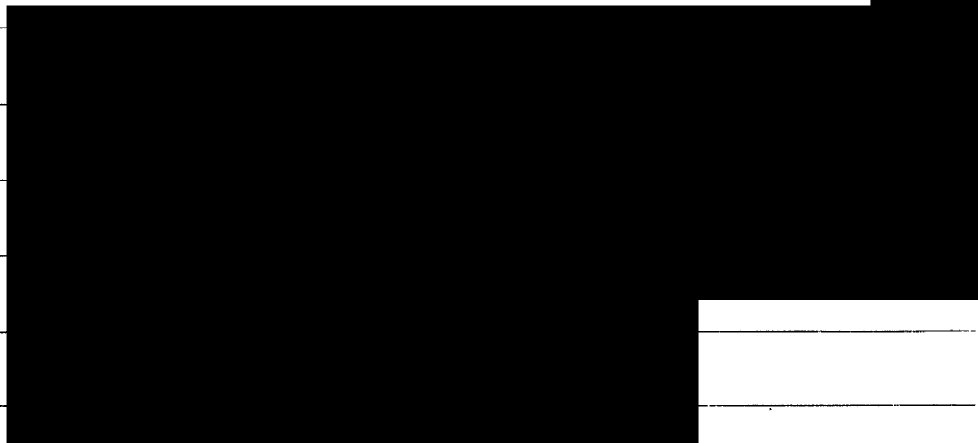
3. 動 ←

変動を考慮してほしいと述べていたが、交渉が10年

以上もかいているのは、李承晩政権の強固な

態度によるもので、貨幣価値の変動の責任を

日本が持つ理由をしっかりと断つておいた。



4. 韓国の例に対し、経済協力は、韓国の例に實際

従うように考慮しているものであつて

この点を十分考慮して

ほしい」と述べたのに対し、韓国の例は、自分としては

清償権の問題を別にして、creditを第2で済

つたというのでは立場が全く異なることを考慮してほしい

と述べた。

5、

清償権として松村根拠のあるものは少ない

のだが、韓国の例の考慮するよう、清償権を後

援助の経済援助の二本立ては取り得る。

ゆえに、

清償権と云ふは

命令第33号で日本の譲りし来た財産も

考へぬは「やらぬ」と述べたのに対し、韓正例は、

それと言われれば、36年間の在韓期間における

日本の搾取の方が多かったという議論が主と

来ると述べた。それに対しては、日本国民は

そうは思っていないと述べ、とにかく済済権と

ソコは決りと言ったところ、韓正例は、その

済済権と世償援助との重なり合ったものについて

何か良い名称は世にないかと<sup>平心</sup>~~平心~~の2: これは

双方で考へることにしようと思へておいた。

6. 韓正例は、全裕材の去した子償は、減

ら有用意があると述べたが、これに対しては

めざしと取合の旨にぞおいた。

7. ~~8.~~ 韓運後| に対し、招待協力の案について、6つと

鉄口かいて

~~案~~ 考をさかすよう述べた。

7. ~~8.~~ 次回は、16日とし、村内は15日夕方まで

知らせることとした。

9. ~~8.~~ 次回会合の案と、本日は友招和衆団案で、

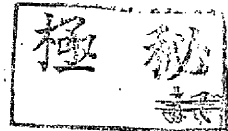
~~8.~~ 双方の立場について深く話し合った。会合は

成りおいたというところを意旨に発表するにせ

した。

以上。Xモし振込の案と、喜像に交えた案があるが

~~後日の参考のためメモした。 (十部)~~



日韓政治折衝第3回会談記録

37.3.15

北東アジア課

本省会談は、3月15日午前10時5分より11時45分まで、1時間40分、大臣接見室において行われた。大臣・長官のほか杉・斐両首席代表が参加、斐大使が通訳に当った。

会談内容次のとおり(会談後大臣よりト部参事官に対し要点口述されたもの)。

1. 韓国側の態度は、従来にくらべればやや柔かくなつた。
2. 証拠書類について、それが亡失したりしていることにつき、総論中で述べられたことを感謝する旨述べていた。
3. 韓国側は、貨幣価値変動を考慮してほしいと述べたが、交渉が10年以上もかかっているのは、李承晩政権の頑固な態度によるもので貨幣価値の変動の責任を日本が持つ理由なしとして断つておいた。

[REDACTED]

4. 韓国側に対し、経済協力は、韓国側に実際  
役立つように考えているのであつて [REDACTED]

[REDACTED] この点を十分考え  
てほしいと述べたのに対し、韓国側は、自分  
としては請求権の問題を別にして、credit を  
貰つて帰つたというのでは立場が無いことを  
考えてほしいと述べた。

5. 請求権として法的根拠のあるものは少ない  
のだが、韓国側の考えているような、請求権、  
無償援助及び経済援助の三本立ては取り得な  
いわけで、 [REDACTED]

[REDACTED] 請  
求権と言えは軍令第33号で日本の残して来  
た財産も考えねばならぬと述べたのに対し、  
韓国側は、それを言われれば、36年間の占



領期間における日本の擄取の方が多かつたという議論が出て来ると述べた。これに対しては、日本国民はそうは思っていないと述べ、とにかく請求権というのは拙いと言つたところ、韓国側は、その請求権と無償援助とが重なり合つたものについて何か良い名前は無いかということなので、これは双方で考えることにしようと答えておいた。

6. 韓国側は金裕沢の出した8億ドルは、減らす用意があると述べたが、これに対してはわざわざ取合わないでおいた。

7. 韓国側に対し、経済協力の点について、もつと重点をおいて考えておくよう注文しておいた。

8. 次回は、16日とし、<sup>時</sup>期間は15日夕方までに知らせることとした。

9. 次回会合の点と、本日は友好的雰囲気、双方の立場についてもつと深く話合つた。金額は出なかつたということを新聞に発表することとした。